

令和 4 年 8 月 25 日現在

機関番号：12601

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2019～2021

課題番号：19K00494

研究課題名(和文) Villa Aurora as Sanctuary: A History of German Literature in Los Angeles, 1995-2020

研究課題名(英文) Villa Aurora as Sanctuary: A History of German Literature in Los Angeles, 1995-2020

研究代表者

ケブラータサキ シュテファン (KEPPLER-TASAKI, Stefan)

東京大学・大学院人文社会系研究科(文学部)・准教授

研究者番号：20765680

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,100,000円

研究成果の概要(和文)：「Sanctuary/サンクチュアリ」は「聖域」という意味のほかに「避難所」も意味する。この両義を体現する場として「Villa Aurora/ヴィラ・オーロラ」(米国ロサンゼルス)は存在し、1940年代にはドイツから亡命してきた作家や芸術家の集いの場として、そして1995年以降はドイツ外務省のレジデンシー・プログラム(アーティスト・イン・レジデンス)の一つとして重要な文化的・外交的役割を担ってきた。本研究は、そこで生まれた文学作品に焦点をあてることで、サンクチュアリ・シティを自認する移民社会ロサンゼルスの社会的エネルギーを媒介とするドイツ・米国西海岸・アジアの歴史的・文学的な関係をあきらかにする。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、レジデンシー・プログラム(アーティスト・イン・レジデンス)という文化事業の成果をその学術的かつ歴史的側面から分析するという、学術的には新しい試みである。本研究の対象となったドイツ外務省の米国レジデンシー・プログラム「Villa Aurora/ヴィラ・オーロラ」から生み出された文学作品を分析することにより、また、ロサンゼルスというその立地の歴史的な移民社会性もあわせて分析することによって、ドイツと米国西海岸のみならず、さらにドイツ・米国西海岸・アジアというより広範囲で一層深い学術的・文化的・社会的交流の様子をあきらかにすることができたことは社会的にも大変意義のある成果であった。

研究成果の概要(英文)：The word "sanctuary" means not only "sacred space" but also "place of refuge". Villa Aurora (Los Angeles, USA) embodies both of these meanings and has played an important cultural and diplomatic role as a gathering place for writers and artists who were forced to flee Germany in the 1940s, and since 1995, as one of the residency programs (artist-in-residence) of the German Foreign Ministry. By focusing on the German literary works produced there, this project reveals the literary and historical relationship between Germany, the U.S. West Coast, and Asia, bound by the social energy of the immigrant community of Los Angeles, a city that considers itself a sanctuary city.

研究分野：ドイツ文学

キーワード：ドイツ文学 亡命文学 アーティスト・イン・レジデンス レジデンシー・プログラム

## 様式C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

(1) 本研究の直接的背景は、2015年のヨーロッパ難民危機と、それを反映した文学作品の出現だった。

(2) 特に、米国カリフォルニア州ロサンゼルスにあるドイツ外務省の国際文化事業レジデンシー・プログラムの一つである「Villa Aurora/ヴィラ・オーロラ」から生み出される文学作品群は本研究の対象としてきわめて興味深いものであった。というのも、「ヴィラ・オーロラ」は、1940年代には第二次世界大戦を理由にドイツから亡命を余儀なくされた作家や芸術家にとっての異国の地ロサンゼルスにおけるサンクチュアリとして文化的・政治的な聖域・避難所としての役割を果たし、1995年以降は主に文化的レジデンシー・プログラム施設として若手作家を中心にこれまでに約90人を受け入れることでカリフォルニアの文化や社会との対峙をテーマにした作品を生み出してきたからである。それらの文学作品に反映されている亡命や避難の経験や、難民や移民の問題、ひいては生存と新たな出発についての思索にふれたことが、本研究のきっかけとなった。

### 2. 研究の目的

(1) 本研究「Villa Aurora as Sanctuary - サンクチュアリとしてのヴィラ・オーロラ」の目的は、アメリカの移民に関する議論にもちいられてきた「サンクチュアリ・シティ」という概念を主軸として、米国カリフォルニア州ロサンゼルスに位置するドイツ政府のアーティスト・レジデンス「ヴィラ・オーロラ」において1995年から2020年にかけて構想・執筆された文学テキストを分析し、歴史的かつアクチュアルな視点が複雑に絡み合いつつ、移住と避難の歴史と経験を、ドイツ・米国西海岸・アジアという広範囲にわたって扱っていることを示すことである。

(2) ヴィラ・オーロラは、ドイツ人作家にとって、米国の移民社会を直接体験することのできる機会を提供する場であると同時に、特にロサンゼルス周辺の大規模なアジア人コミュニティにふれることのできる場所でもある。本研究は、アジア・ドイツ研究という新しい分野を基礎としていることもあり、そのベクトルを通して、日本と米国西海岸のドイツ研究の橋渡しになることも目指している。

### 3. 研究の方法

(1) 研究方法としては、ヴィラ・オーロラを媒介として生み出された文学的テキストの歴史的文脈の分析と、作家や芸術家といったレジデンシー・プログラム参加者へのインタビューを用いた。

(2) また、ロサンゼルス市史、カリフォルニア州史も研究対象とし、ロサンゼルスの自認する「サンクチュアリ・シティ」という社会政治的な概念も取り入れた。

(3) 理論的主軸としては、新歴史主義(New Historicism)の理論を採用し、社会のさまざまな領域が「社会的エネルギー」によってつながっていると考える視点から出発している。これは、移住という行為のもつ感情的ダイナミズムを理解するのに特に適しているように思われ、政治的かつ芸術的な避難所として、また、ドイツと米国の文化的関係の拠点としてのヴィラ・オーロラを考察するための重要な観点を提供してくれた。

### 4. 研究成果

(1) 本研究初年度の成果は、論文一本「Goethe in Kalifornien. Thomas Mann und die Weimarer Ausgabe」(Goethe-Jahrbuch 136, ISBN: 978-3-8353-3814-2)、講演3件「Academia's response to current shifts in political culture」(2019年8月26日、於Thomas Mann House、米国ロサンゼルス)、「Villa Aurora as Sanctuary」(2019年10月16日、於Thomas Mann House、米国ロサンゼルス)、「With the Eyes of a Global Citizen. Alfred Doebelin as Berliner and Cosmopolitan」(2019年12月5日、於Max-Kade-Institute、南カリフォルニア大学、米国ロサンゼルス)にて発表する機会を得た。

(2) 本研究2年度の成果は、ヴィラ・オーロラのウェブサイト上でマイクロ・エッセイ「#MannsLA: Episode 3. Alfred Doebelin - Love Thy Enemy, 9. June 2020」、「#MutuallyMann: The Irony of Thomas Mann's Germany and the Germans, 2. December 2020」として、また、単著「Wie Goethe Japaner wurde. Internationale Kulturdiplomatie und nationaler Identitätsdiskurs 1889-1989」(Iudicium出版, ISBN: 978-3-86205-668-2)の中で発表する機会を得た。

(3) 本研究最終年度には、総括的成果として、ヴィラ・オーロラ25周年を記念する書籍『all the lonely people』(2022年1月、ISBN: 9783959056076)に論文「Fluchtpunkt Los Angeles: 25 Jahre Literatur aus der Villa Aurora / Focus: Los Angeles as Sanctuary. 25 Years of



5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 1件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 Stefan Keppler-Tasaki	4. 巻 136
2. 論文標題 Goethe in Kalifornien. Thomas Mann und die Weimarer Ausgabe.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Goethe-Jahrbuch	6. 最初と最後の頁 199-213
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.5771/9783835345485	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

〔学会発表〕 計7件（うち招待講演 7件/うち国際学会 7件）

1. 発表者名 Stefan Keppler-Tasaki
2. 発表標題 Writing in Residence
3. 学会等名 Writing in Residence: Globale Literaturproduktion in deutschen Residenzprogrammen（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Stefan Keppler-Tasaki
2. 発表標題 Das Gewissen der Welt. Thomas Mann im Spiegel seiner Tokyoter Korrespondenz 1946 bis 1955
3. 学会等名 VERNETZUNGEN DEUTSCHER UND OSTASIATISCHER LITERATUR MITTE DES 20. JAHRHUNDERTS: EIN BLICK IN DIE ARCHIVE, DEUTSCHES LITERATURARCHIV MARBACH 13. OKTOBER 2021（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Stefan Keppler-Tasaki
2. 発表標題 25 Years of Literature from the Villa Aurora, a Sanctuary of Exile and a Gateway to California, Q&A moderated by Michaela Ullmann
3. 学会等名 The Sanctuary. Art and Literature from Exile and Hermitage Los Angeles, November 6, 2021（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Stefan Keppler-Tasaki
2. 発表標題 Einleitung
3. 学会等名 Writing in Residence: Globale Literaturproduktion in deutschen Residenzprogrammen Mar 4-5, 2022, Literarisches Colloquium Berlin, Germany (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Stefan Keppler-Tasaki
2. 発表標題 Academia's response to current shifts in political culture
3. 学会等名 An Appeal to Reason, 26.8.2019, Thomas Mann House, Los Angeles (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Stefan Keppler-Tasaki
2. 発表標題 Villa Aurora as Sanctuary
3. 学会等名 Lecture, 16.10.2019, Thomas Mann House, Los Angeles (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Stefan Keppler-Tasaki
2. 発表標題 With the Eyes of a Global Citizen. Alfred Doeblin as Berliner and Cosmopolitan
3. 学会等名 Lecture, 5.12.2019, Max-Kade-Institute, University of Southern California (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 Villa Aurora, Thomas Mann House e.V.	4. 発行年 2022年
2. 出版社 Spector Books	5. 総ページ数 170
3. 書名 all the lonely people	

1. 著者名 Stefan Keppler-Tasaki	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Iudicium	5. 総ページ数 191
3. 書名 Wie Goethe Japaner wurde. Internationale Kulturdiplo­matie und nationaler Identitaetsdiskurs 1889-1989.	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------